

屋内スケート施設あり方検討会議報告書（素案）に寄せられた御意見の概要及び御意見に対する検討会議の考え方

1 意見の募集期間 令和5年2月15日～令和5年3月15日

2 提出された意見の件数 意見者数 90人（意見数 125件）

※御意見の分類上、意見数については125件とカウント

※寄せられた御意見については別添の「御意見一覧」を参照

3 提出された御意見に対する検討会議の考え方

番号	項目	検討会議の考え方
1	全般（整備希望等）について	<p>今回の意見募集においては、整備を希望する御意見を多数いただいている一方で、不要であるとの御意見もいただいております。</p> <p>検討会議では、他県の施設や県内の競技団体の状況、若者・女性の意見など様々お聴きしながら、屋内スケート施設を整備する場合の効果として、特に本県の子どもたちの未来を考える意見や、課題として民間事業者が参入しないことから持続可能性や運営の厳しさに関する意見が出され、そうした議論を踏まえて、基本的な考え方を整理しています。</p> <p>検討にあたっては、かつて民間が運営していた施設が閉鎖に至ったことなどから、「持続可能な施設」とするにはどうすべきか、という点が大きな論点となりました。スケート施設は製氷・整氷に係る機能・設備など、他のスポーツ施設にはない特性を有し、整備・運営に係るコストが高上りになりますが、一方で、スケート関係の競技人口は必ずしも多いとはいえ、本県の人口規模、さらには人口減少が進む現状を考えると施設利用者の確保が極めて大きな課題となることから、「スケート以外にも、より多くの方から有効に活用いただける多機能性」を有する施設を、あり方の基本的な考え方のひとつとして提示しております。</p> <p>この度の報告書は、検討の一步目として、今後、具体的な検討を進めるための土台となる考え方を示したのですが、今後は、県が報告書の内容に沿って経済波及効果など、民間のマーケティングの視点を取り入れた調査を実施し、いただいた御意見も踏まえながら、検討の段階を進めていくこととなります。</p>
2	必要性について	

3	運営形態等について	<p>全国のスケート施設数は減少傾向にあり、少子高齢化を伴う人口減少による利用者の減少、老朽化設備の更新費や製氷・整氷のための維持費の負担等の課題がその背景にあるといわれております。</p> <p>また、他県のスケート施設の事例をみても、開設後から経年で利用者が減少しており、利用者数の確保の難しさがうかがえます。スケート施設の特長として、冬季間はウィンタースポーツとして利用者数が多くなりますが、夏季は利用者数が減少する傾向にあり、全国のスケート施設の約8割が夏季はスケート利用を行わず施設の閉鎖または別用途への利用に供する形態となっております。</p> <p>このような中で、持続可能な施設を考えるには、多くの方から利用されること（利用者数の確保）、スケート施設の特長から増嵩しがちな整備・運営コストに係る財政負担の抑制、製氷・整氷に係る技術をはじめ施設運営のノウハウを有する民間との効果的な連携が、大きな課題と考えられます。そうしたことを踏まえながら、この度の報告書を策定し、基本的な考え方等をお示ししたところです。</p>
4	仕様（規格）等について	<p>なお、過去の事例データについては、昨今の物価高騰、電力需給ひっ迫の影響を受け、さらに増額している状況にあります。初期の整備コストのみならず、維持管理、補修、更新等を含むライフサイクルコストをより精査する必要があると考えます。</p> <p>今回は、検討の第一歩目として、今後、具体的な検討を進めるための土台となる考え方を示したのですが、今後は、県が、夏季にどれだけ利用者を確保できるのかも含め、事業費や収支シミュレーションなどについて調査を実施し、いただいた御意見も踏まえながら、検討の段階を進めていくこととなります。</p>
5	期待される効果について	<p>今回の意見募集では、報告書にもある「屋内スケート施設整備により期待される効果」と同様又は近い内容の御意見を多くの方からいただきました。</p> <p>スポーツは、県民の生活や心を豊かにし、「県民の幸せ」や「ウェルビーイング (Well-being)」につながるものといえ、県民のスポーツに親しむ機会が充実され、本県での暮らしに新たな彩りを与え、県民の幸福度の向上をもたらすことが期待されます。</p> <p>特に、子どもたちにとっては、幼児期から様々なスポーツに触れる機会が向上することで、新たな関心の醸成や運動能力の向上、さらには、県内での新たな活躍の場の創出が期待され、ひいては、夢の実現へとつながっていくことが期待されます。また、若者・女性を対象にしたインタビューにおいても、本県は「遊ぶところがない」、「楽しいところがない」「何もないイメージが定着している」などの意見が寄せられていることなどから、エンターテインメント性のある施設、「ワクワク感」が感じられる施設を整備することで、余暇の充実を実現し、若者・女性の定着・回帰につながることも期待されます。</p> <p>なお、競技力向上の面からは、環境整備が重要であり、併せて競技団体などによる組織的な対応も求められます。</p> <p>こうした点も踏まえ、検討会議では、期待される効果について、①県民の幸せの向上、健康増進、②地方創生、若者・女性の定着・回帰、③競技力の向上、④共生社会の実現として取りまとめたところです。</p>

6	持続可能性について	<p>高額な維持管理費を心配する御意見などもいただいておりますが、検討会議としては、「県内にあった公式大会のできる屋内スケート施設がなくなった」という経過を踏まえ、「持続可能性」を特に重視して進めてまいりました。</p> <p>持続可能な施設とするためには、多くの方から利用されること（利用者数の確保）、スケート施設の特徴から増嵩しがちな整備・運営コストに係る財政負担の抑制、製氷・整氷に係る技術をはじめ施設運営のノウハウを有する民間との効果的な連携が、大きな課題と考えられます。</p> <p>特に利用者確保については、本県のスケート関係の競技人口は必ずしも多くはなく、人口減少が進む中、本県の人口規模を考えると大変難しい問題です。そのため、報告書では「スケート以外にも、より多くの方から有効に活用いただける多機能性」を有する施設を、あり方の基本的な考え方のひとつとして提示しています。</p>
7	利用者確保について	<p>また、再生可能エネルギーの活用などの御意見をいただきましたが、これからの施設整備においては、ユニバーサルデザイン、環境負荷の低減（カーボンニュートラル）及びデジタル技術の活用といったSDGsの視点も重要です。</p> <p>このような観点から、今回は、検討の一步目として、今後、具体的な検討を進めるための土台となる考え方を示したものです。今後は、県が収支のシミュレーションなど、民間のマーケティングの視点を取り入れた調査を実施し、いただいた御意見も踏まえながら、検討の段階を進めていくこととなります。</p>
8	スペシャルオリンピックスについて	<p>屋内施設の整備は、様々な環境に臨機応変に対応することが難しい場合においても、天候の影響を受ける屋外施設と異なり、活動の機会を計画・提供しやすくなり、機会の充実につながると考えられ、また、屋内で公式大会を開催できる施設があることは、スペシャルオリンピックスなど障がい者スポーツ競技を目指す選手にとっても、スポーツ環境が改善することとなります。</p> <p>年齢、性別、障がいの有無等に関わらず、誰にでも「優しい施設」を整備するために、先進事例等も参考にしながら、ユニバーサルなデザインの施設を目指す必要があり、こうした点も踏まえ、今後は県において検討の段階を進めていくこととなります。</p>
9	カーリングについて	<p>本県でも様々なスポーツに触れる、楽しめる、活躍できる、様々な可能性が広がる環境の整備は、若者や女性の本県でのくらしの肯定感や郷土愛、地域へのアイデンティティの醸成につながることが期待されます。例えば、冬季五輪における女子カーリングチームの活躍などは、五輪開催のたびに大きな注目を集めており、こうした競技を実施できる環境があれば、県内の女性活躍の幅が広がることが考えられます。</p> <p>今後は、いただいた御意見も踏まえながら、県において検討の段階を進めていくこととなります。</p>

10	立地について	<p>多くの御意見をいただいたとおり、施設整備において立地は非常に重要となるため、しっかりとした調査が求められます。</p> <p>報告書では、アクセス性（立地）について、施設の性格や事業性に大きく影響するものであり、経費抑制の観点から公有地の活用を前提に、自家用車・公共交通機関の利便性も考慮するなど、慎重な検討が必要としています。</p> <p>今後は、いただいた御意見も踏まえながら、県が民間のマーケティングの視点を取り入れた調査を実施し、検討の段階を進めていくこととなります。</p>
----	--------	--